

## 第1回 本町田地区小学校新たな学校づくり基本計画推進協議会 議事録

開催日時	2023年5月19日（金） 18:02~20:17	
開催場所	本町田東小学校 家庭科室	
出席者 (敬称略)	委員	末吉委員、渡邊委員、渡辺（和）委員、高柳委員、永山委員、熊澤委員、日高委員、渡辺（一）委員、手塚委員、越水委員、小原委員、北澤委員、平本委員、本城委員、◎若月委員、大波多委員、望月委員、西山委員、○杉本委員、大谷委員 (◎：会長、○：副会長)
	事務局	石坂学校教育部長、教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、保健給食課、指導課、教育センター、企画政策課、防災課
傍聴者	0名	

## 議事内容（敬称略）

はじめに 学校教育部長挨拶及び委員委嘱

学校教育部長 本町田地区においては、2022年1月から、新たな学校づくり基本計画検討会を実施した。そちらで、全12回にもわたり参加いただき、具体的な検討を行ってきた。その検討を踏まえ、教育委員会として、2023年3月、本町田地区小学校新たな学校づくり基本計画を策定した。

本協議会では、基本的には基本計画の進捗を共有するのが基本だが、それ以外にも、保護者の皆さんから多くのご意見をいただいた通学路の安全対策や、通学時における児童の負担軽減に関して、具体的な協議も行いたい。そのほかにも、学校の跡地の検討や、建て替えなどに伴う新たな避難施設機能の検討に関しても、取組状況や進捗状況などについて、お話をさせていただく。

学校というと、どうしても建物というイメージになるが、新たな学校づくりと言っているのは、建物の建築計画ではない。当然、建物も新たになるが、児童・生徒の学びの場だけでなく、地域の拠点として学校をつくっていくという気持ちでやっている。施設だけではなく、その運営も一体となって一新するのが新たな学校だと思っている。この取組を進めていくに当たり、関係する各組織や団体を代表して本日お集まりいただいた皆さんと、未来の子どもたちのために様々な議論をさせていただき、教育委員会や学校のみならず、全員でこの取組を進めていきたい。

新たな学校推進課 続いて、学校教育部長から委員の皆様へ、本協議会の委員委嘱書をお渡ししたい。

〔 委嘱書交付 〕

1 本町田地区小学校新たな学校づくり基本計画推進協議会の設置について

新たな学校推進課 (資料1説明)

(会長・副会長選任)

2 委員自己紹介及び開催日程

(各委員自己紹介)

(資料2-2説明)

3 町田市本町田地区小学校新たな学校づくり基本計画及び町田市本町田地区小学校新たな学校づくり建設基本計画について

新たな学校推進課 (資料3-1、3-2説明)

施設課 (資料3-3説明)

4 報告事項

(1) PFIによる新校舎建設等のスケジュールについて

新たな学校推進課 (資料4-1説明)

(2) 通学路合同安全点検の実施報告について

学務課 (資料4-2説明)

(3) 学校跡地の活用について

企画政策課 (資料3-2を用いて説明)

委員 今後、検討委員会を立ち上げるのか。

企画政策課 今はまだ需要を精査するという段階であり、2025年度に跡地の基本計画を策定する予定。その基本計画の策定に当たっては、地域の方のご意見を伺っていきたいと考えていることから、検討委員会や懇談会などの立ち上げも検討していきたい。

(4) 工事期間中の避難施設について

防災課 (資料3-2を用いて説明)

(5) 新たな学校づくり説明会の開催について

新たな学校推進課 (資料4-3説明)

5 検討事項

(1) 新たな学校への歴史の継承について

新たな学校推進課 (資料5-1説明)

## 〔 ワークショップ 〕

町三小グループ デジタル保存について、写真を撮ってホームページで見られるようにというのはとても便利ではあるが、高齢の方やデジタルに不慣れな方にとっては、実物を見てもらえる場も必要なのではないかという意見があった。ただ、メモリアルルームとかをつくるというのは、長い目で見るとやはり不要になってくるということも考えられるので、閉校イベントに絡めて町三小の歴史が感じられるような展示会を開催したり、卒業制作に関しては、希望者を募って引き取ってもらうことや買い取ってもらうようなイベントを企画するといった意見もあった。いずれにしても、閉校イベントについて、どのように周知して集まってもらうのかは今後の課題になるのではないかという意見が出た。

本東小グループ 校名プレートや校章はやはり実物として残すべきであるという意見が出た。まず実物で残したいものを絞り込み、その上でデジタルで残すものを検討していくべきという意見が出た。また、デジタル保存についても常日頃みられるような方法を検討していくべきという意見が出た。

学校に寄贈された卒業記念品や絵画などについては、返却する手間やリスクを全て考えると、全体像を写真として撮影するという形でデジタル保存をしたほうがいだろうという意見が出た。

実物として残しておくものについては、メモリアルルームとして大きなスペースは作る必要はないが、地域の方が学校に来て、昔を感じられるような場所として展示できる場所を設けられるといいという意見が出た。

卒業アルバムが3校分で大量にある。これをデジタルすることだが、果たして本当に可能なのか、場合によっては別に保管庫を設ける必要があるのではないかという意見が出た。

本小グループ 本町田小は20年前の統合時に整理されたと思われることもあり、残すべきとして拳がっている物品が少ない。その中で、本校には「ふるさと館」というものがある。歴史的価値のあるものも保存されているが、実際のところ最近ではほとんど利用されていない。過去には地域の方へ開放していたこともあるが、地域の方からも存在を忘れられている状態。こうしたものはデジタル保存として写真を残しておくといいのではという意見が出た。

また、オープンスペースのようなところに置かれたパソコンを開けば簡単に見ることができるという方法でもいいのではないかという意見も出た。本校にもメモリアルルームはあるが、統合前三校のアルバム等を保存した棚が3つあり、あとは物置のようにになっている。改めてこうしたスペースを作るのではなく、オープンスペースのような場所に、大事なものは掲示し、あとはデジタルで簡単に見られるような形で保存できればいいという意見が出た。

太鼓については旧3校の太鼓が3つある。今後、必要な処分という形ではな

く、授業や行事で活用する念頭に、状態のいいものを残すという案が挙がった。

## (2) 新たな学校の校歌・校章について

新たな学校推進課 (資料5-3説明)

### [ ワークショップ ]

町三小グループ 地域に縁のある著名な人は思い当たらない。また、特に作曲に関しては専門的な技術が要求されるため、教員への依頼は難しいのではないか。校章に関しては検討の余地はあると思うが、校歌に関しては専門家に依頼した方がいいという意見が出た。専門家については、本町田と限定してしまうと見つからないので、広く町田という範囲で探した方がいいという意見も出た。

本東小グループ 公募方法について、-googleフォームだけでなく、インターネットに不得手な方でも応募できるような方法を検討すべきという意見が出た。それを地域の中の公共施設などに設置した応募箱に入れるような方法もあるのではないかという意見も出た。また、応募用紙についても、細かい字でたくさん書いてあるようなものではなく、簡単な形式の応募用紙にしてもいいのではないか。

作成依頼先については、地域に縁のある専門家は思いつかない。また、教員への依頼も負担が重すぎる。ということで、大学連携がいいのではないか。大学生に学校や子供たちの雰囲気を感じてもらい、そこから校歌・校章を作っていてほしい。大学側が受けてくれるかという問題はあがあるが、このグループでは大学連携が一番いいという意見になった。

本小グループ 作成方法については、スケジュールなども勘案すると、専門家に依頼した方がいいだろうという意見が出た。特に校歌に関しては専門性が問われることを考えると、専門家に依頼するか、大学連携の方法がいいという意見が出た。

また、公募に関しては、特に校歌は専門性が高く、公募で集まったフレーズをつなぎ合わせることは難しい作業で、想いも伝わらなくなるリスクがあることも案が得ると、専門家の方に地域や学校を見ていただいた上で一任してもいいのではないか。その上で出てきた幾つかの校歌の案から検討していく方がスムーズになるという意見も出た。

校章に関しては、デザインができる人は校歌よりも多いと思われるので、こうした公募の形式でもスケジュールには合致するのではないかという意見が出た。

気になる点として、本町田小と本東小が2025年度に統合し、校歌や校章を使用した上で、2028年度に町三小が合流する。そういう意味では、あとから統合することになる町三小の想いも含めて、三校の想いを込められるような形を検討しないといけないと思う。

会長 (閉会のあいさつ)